もよおし

13日（土）13：30～

・「コカリナ」演奏（品川コカリナアンサンブル）ギター伴奏嶋田昭次

コカリナは自然の木で作られた楽器です。手のひらにのるこの小さな笛が「小鳥たちも人間も仲間だよ」と呼んでいるようです。コカリナの温かい音色が「平和の響き」となっていけたらと思っています。「野に咲く花のように」「上を向いて歩こう」「星の世界」「青い空は」「故郷」

・朗読構成「2011.3.11」朗読集団「風」岩城津千子・下田亮子・針谷紀美江・南恵子

『いのち』作山口賢『海が哭く　人が泣く』作吉田慶子『夏を送る夜に一原爆ジプシー逝く』作鈴木文子『遠くにいる者』作吉田博子『刷り込み（インプリンティング）』作奥田史郎『能天気』作金井かつみ『「死の国」からの告発』作前田新[出典]詩人会議６．７月号鈴木文子詩集「女にさよなら」

・東日本大震災ボランティアに参加して：米内悠介さん

大震災直後の３月末、４日間ほど石巻市と塩釜市を中心に被災者の支援や荷物の運搬にかかわってきました。津波の後の状況に衝撃を受け、またその下で苦しい生活を余儀なくされている方々に胸が痛みました。映像で現地の様子をお知らせします。

・原発を考える：福島重雄さん（元大崎高校教諭）

今年３月、原発事故が起きました。６５年前には、ヒロシマ・ナガサキのピカドン。日本人のだれもがこの事態に困惑怒り憂慮等の思いに直面させられている昨今です。私もその人。これから生きていくために何が必要か、何をしたらいいのか。「核分裂」の歴史などをふり返り、原子力の時代の心構えを、会場の皆さんと探っていきたいと今考えています。

14日（日）13：30～

・DVD「その日の後で　ーフクシマとチェルノブイリの今」

フクシマとチェルノブイリの今を比べながら原発事故の恐ろしさを考えます。

・三線（さんしん）演奏　　照屋三線倶楽部

東大井で照屋正寛先生指導の下、毎週水曜日の夜唄三線のお稽古をしている倶楽部です。沖縄芸能を通して沖縄の歴史・平和の心も学んでいます。

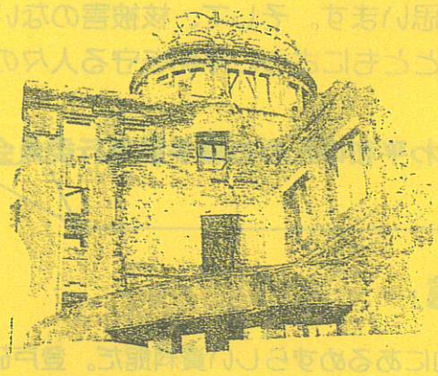
募金のお願い

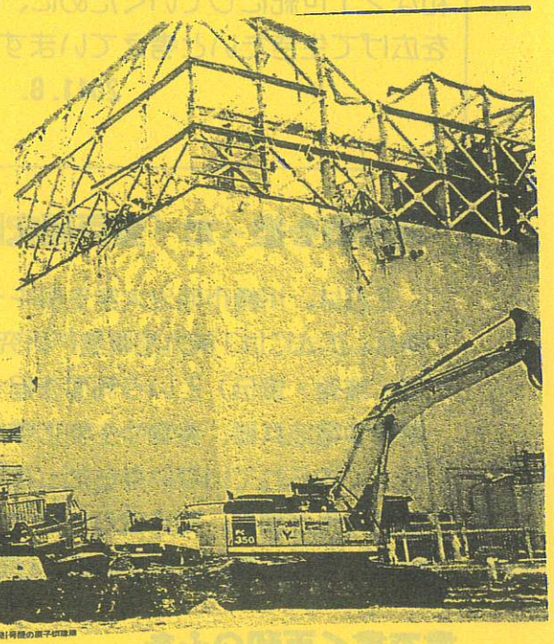
私たちの「しながわ平和のための戦争展」は個人参加の実行委員会が賛同する皆様からの事前のまたは会場での募金をもとに毎年開催しております。区民ギャラリーの会場は１週間単位で高額です。今回は、会場募金の一部は福島への支援としたいと考え１５万円の目標を立てております。お帰りには、ぜひ、一言感想と募金をよろしくお願いします。

しながわ　2011年　第28回

平和のための戦争展

戦争をする国にさせないために　今私たちは





とき　8月11日（木）～14日（日）
10時～19時30分（15日は17時まで）

ところ　品川区民ギャラリー（イトーヨーカドー大井町店8階）
京浜東北線・大井町線　大井町下車　徒歩1分

主催　しながわ平和のための戦争展実行委員会

連絡先　03-5742-7563（西條明子）　03-3727-8382（扇谷道子）

第28回平和のための戦争展開催にあたって

1984年（昭和59年）手さぐりで始めた「しながわ平和のための戦争展」は、今年で28回目を迎えました。今年は3.11東日本大震災と津波そして福島原発事故で日本中が慄きました。被災地の様子を見て、「空襲の後みたい」といった方が多くいらしたと聞きました。それに加えて「原発」事故。「原発は原爆とは違うものだと思っていたのに、原子力のエネルギーは人間の制御できるものではなかった」と語る被爆者の言葉が忘れられません。「核のない世界を」願ってきた私たちは、核の被害をこれ以上出さないために「原発」の問題を取り上げ、みなさんと共に考えたいと思います。そして、核被害のない平和な21世紀にしていくために、みなさまとともにさらに平和を守る人々の輪を広げて生きたいと考えています。

2011.8.　しながわ平和のための戦争展実行委員会

秘密戦を担った「登戸研究所資料館」

それは、川崎市明治大学生田キャンパス内にあるめずらしい資料館だ。登戸研究所は、正式には「第九陸軍登戸研究所」といい、戦争には必ず存在する「秘密戦」（防諜・諜報・宣伝）という側面を担っていた。それは、どんな施設だったのか、風船爆弾や電波兵器、毒物や生物化学兵器の開発と実験、中国紙幣の偽造。地元の人にもよく知られていない存在だった登戸研究所を川崎市民と川崎の高校生そして長野の高校生が調べ、聞き取りをして明らかにしていくまでが、昔の研究所の建物の一部を保存して展示されている。ぜひ、多くの人に行って欲しい資料館である。

書で書く平和の心を

“くじけないで”百歳の詩人柴田トヨさんの詩集から選んで書きました。やさしい言葉の中にある強さに大きな励ましを受け、感動し、書友89歳から65歳の仲間25名が力いっぱい書きました。

今年は、フクシマの方々への心を籠めた応援と核廃絶を願ってみんなの気持ちをひとつにしての作品です。

実物が語る戦争

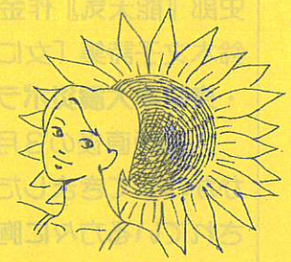
戦争中使われた品物を展示します。兵隊さんに送る慰問袋、千人針。ゲートル、当時の写真、戦争中の地図、遊び道具、などなど。実物から戦争のことを語り継ぐきっかけにしてほしいと思っています。分からないものがあったら、会場の人に声をかけて聞いてください。

核兵器・原発一人類の被爆体験

ヒロシマ・ナガサキ・ビキニそしてチェルノブイリ・フクシマ

3．11の東日本大震災と津波そして原発の事故は日本人に大きな動揺を与えました。原爆は核兵器、「原発は平和利用で安全」という「刷り込み」をされてきていた私たちも目を覚まさざるを得ませんでした。原爆と原発は双子の姉妹。核エネルギーの暴走は人間の手に負えない被害をもたらすことを思い知らされました。そこで、

- ヒロシマ・ナガサキの原爆の被害
- ビキニ水爆実験と第五福竜丸の被害
- 原爆と原発
- 核軍拡競争の中で未成熟なまま量産されていった原発
- 原発と放射能被害の危険
- 原発労働者は？
- チェルノブイリ原発事故と子どもたち
- フクシマ原発事故と放射能の広がり
- フクシマの今と子どもたち
- みんなで考えよう（私たちの声・願い・アクション）



これ以上核の被害を出さないために共に考えたいと思います。

戦争への道

戦前から戦中にかけての学校教育の目的はなんだったのでしょうか。とりわけ60余年前の国民学校といわれる時代（1941年～1945年）は「神の国と軍国主義」が強く打ち出された国定教科書で学んだ子どもたちが「少国民」となっていきました。当時の教科書を覧いただき、戦争に勝つための教育の恐ろしさに思いを馳せてください。

学童疎開を知っていますか？戦局の悪化に伴って「防空の足手まといを無くし次期戦力の温存」を目的に学童疎開が始まりました。当時、大きな地震や津波もありましたが、規模も被害も隠されて知らされることはほとんどありませんでした。

核兵器と戦争のない21世紀をめざして一世界の子どもの平和像10年

「しながわ平和のための戦争展」に参加していた平和ゼミナールの高校生たちが取り組んだ「世界の子どもの平和像」。取り組みから10年が経過しました。10年の歩みをまとめて展示します。

平和に向かって